

伊丹福音ルーテル教会 待降節第三主日礼拝のしおり

2022 年 12 月 11 日

アドヴェント讃美歌 21.242 番

- 1 主を待ち望むアドヴェント、最初の蠟燭 灯そう 主が道を備えられた この時を守ろう
※ 主の民よ、喜べ 主は近い
- 2 主を待ち望むアドヴェント、第二の蠟燭灯そう 主がなされたその様に 互いに助けよう※
- 3 主を待ち望むアドヴェント、第三の蠟燭灯そう 主の恵み 照り輝き 暗闇を照らす ※

招きのことば：詩編 146 編 5-10 節

いかに幸いなことか ヤコブの神を助けと頼み 主なるその神を待ち望む人。
天地を造り 海とそこにあるすべてのものを造られた神を。
とこしえにまことを守られる主は 虐げられている人のために裁きをし
飢えている人にパンをお与えになる。
主は捕われ人を解き放ち 主は見えない人の目を開き 主はうずくまっている人を起こされる。
主は従う人を愛し 主は寄留の民を守り みなしごとやもめを励まされる。
しかし主は、逆らう者の道をくつがえされる。
主はとこしえに王。シオンよ、あなたの神は代々に王。ハレルヤ。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

クリスマスが近づきました。私たちの主イエス様の誕生をともにお祝いいたします。私たちにはイエス様以外に待ち望む方はおられません。試練の苦しさで心騒ぐ時も、自分の気持ちを制することができず困ってしまうときも、イエス様は私たちを見捨てず、見放さず、世の終わりまで共にいてくださいます。イエス様は思い煩いにとらわれている私たちを解き放ち、どうにもならない人の心をつくりかえて、私たちが喜んで互いに赦しあい、互いに高めあって歩むように導いてくださいます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ヤコブの手紙 5 章 7-10 節

兄弟たち、主が来られるときまで忍耐しなさい。農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待つのです。あなたがたも忍耐しなさい。心を固く保ちなさい。主が来られる時が迫っているからです。兄弟たち、裁きを受けないようにするためには、互いに不平を言わぬことです。裁く方が戸口に立っておられます。兄弟たち、主の名によって語った預言者たちを、辛抱と忍耐の模範としなさい。

福音書朗読：マタイによる福音書 11 章 2-11 節

ヨハネは牢の中で、キリストのなさったことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを送って、尋ねさせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」イエスはお答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」ヨハネの弟子たちが帰ると、イエスは群衆にヨハネについて話し始め

られた。「あなたがたは、何を見に荒れ野へ行ったのか。風にそよぐ葦か。では、何を見に行ったのか。しなやかな服を着た人か。しなやかな服を着た人なら王宮にいる。では、何を見に行ったのか。預言者か。そうだ。言うておく。預言者以上の者である。『見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの前に道を準備させよう』と書いてあるのは、この人のことだ。はっきり言うておく。およそ女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネより偉大な者は現れなかった。しかし、天の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である。

讃美歌 97 番

- 1 朝日は昇りて 世を照らせり、暗きにすむ人 来たり 仰げ
知恵に富みたる主 世にいでたり、愚かなる人は 来たり 学べ
- 2 **力にみつる主 世にのぞめり、かよわき人々 来たり たのめ**
安きを賜う主 世にくだれり、苦しめる人は 来たり 受けよ
- 3 救いを賜う主 世に生まれぬ、高きも低きも 来たり いわれ
天地(あめつち)知らず主 世にあらわる、よろずの物みな どよみ歌え **アーメン**

説教：「見聞きしていることを伝えなさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

クリスマスを待ち望む待降節も第三主日となりました。ろうそくに三本の灯がとりました。私たちも心整えて、主イエス様のご降誕の日を待ち望みましょう。

さて、今朝はイエス様を待っていたはずのバプテスマのヨハネが、一瞬ぐらついたお話です。バプテスマのヨハネはイエス様より先に登場して、ユダヤの荒れ野で多くの人びとに「悔い改めなさい、天の国は近づいた」と語って、イエス様が来てくださるので心を備えるようにと強く勧めた人物です。また、兄弟の妻を奪ったヘロデという王様にバプテスマのヨハネが悔い改めを迫ったため捕えられてしまったという悲しい知らせを受けて、イエス様はバプテスマのヨハネのあとを受け継いで、大きな町へ行って「悔い改めなさい、天の国は近づいた」と人々に宣べ伝えました。ヨハネは先駆者だったのです。

そんなヨハネでもイエス様を疑いました。ヨハネはヘロデ王に捕らえられた牢屋の中で、イエス様のなさっていたことを聴いて疑わしく思い、本当のことを知りたかったのです。イエス様のもとに弟子を遣わして「待つべき方はあなたでしょうか、それともほかの救い主を待つべきなのでしょうか」と尋ねさせました。驚きますね。長い間信仰を貫いて、命がけで神様の言葉を語ってきたリーダー的存在のヨハネでした。みんなに強く勧めて、このイエス・キリストが救い主です、と信仰を促していたヨハネです。どうして疑ったのでしょうか。不思議ですね。

それにはヨハネが自分で描いていた救い主のイメージと、イエス様の噂が一致しなかったからでした。救い主たるもの、神の民であるイスラエルを征服して植民地のようにしていたローマ帝国を滅ぼしてダビデ王のように世界を支配する王であるとヨハネは考えていました。しかし牢屋に捕らえられていたヨハネが自分の弟子たちからイエス様の噂を聴くと随分違います。マタイによる福音書の9章には、バプテスマのヨハネの弟子たちがイエス様のところに来て尋ねています。私たちとも、まじめに生きている人たちも、救い主がくることを熱心に待ち望んで、節制して、断食までしているのに、イエス様、あなたのお弟子たちは断食どころか、罪びとと呼ばれる人たちと一緒ににはでに飲み食いをしているとはどうしたことですか、と尋ねています。節制しないで不真面目でいて、人びとが関わらないようにしていた徴税人や遊女というような罪びとと呼ばれていた人の仲間になっているとはどういうことなのか、理解できませんでした。

実はイエス様は同じ9章の少し前のところで、長い間病気で苦しんでいた人をお癒しになったり、徴税人マタイを弟子としたりしました。喜んだマタイは友だちを呼んでイエス様や弟子と食事をしました。それを見てまじめな人々がイエス様に「なぜ徴税人や罪びとと一緒に食事をするのか」と尋ねました。イエス様は「医者が必要とするのは丈夫な人ではなく病人です、正しい人を招くためではなく、罪びとを招くためにわたしは来たのです」とお答えになりました。ヨハネのお弟子たちはイエス様がそこまで取材できていなかったようです。イエス様は不真面目で騒いでいたのではなく、むしろ、自分の弱さや足りなさを自覚して、人びとからも社会の邪魔者とされていた人々のもとへ行かれて、彼らを受け入れ、彼らの友となり、彼らの罪を赦してあたらしいいのちを与えておられたのです。まじめな人々は、自分の本当の自己中心な姿にまだ気づいていなかったため、つまり、自分が丈夫な人と思っていたので、イエス様の行動がわかりませんでした。

バプテスマのヨハネは牢屋から弟子をイエス様のところに遣わしてあなたが救い主ですか、と尋ねさせました。イエス様は「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい」と答えました。「旧約聖書のなかで預言されている救い主が来ると、目の見えない人は見えるようになり、足の不自由な人が歩くようになり、重い皮膚病の人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえるようになる、と書いているではありませんか。死者は生き返り、貧しい人を福音を告げ知らされます。」ここでイエス様のおっしゃったことは、自分の目や耳、足で取材をして、心をすませたあなたが見聞きしたままをヨハネに正しく伝えなさい、ということでした。イエス様のしていることを正しく伝えるように、人づてにではなく、偏見と歪みのある意見や噂ではなく、自分の目で見て、自分の耳で聞いた正しいニュースをヨハネに伝えるように、と言ったのです。

疑いは、自分の期待と違うイエス様を経験することから始まります。お願いしたのに聞かれなかった、苦しいところを助けていただけなかった、賢い人々の声に耳を傾けると神様やイエス様をこの時代にまじめに信じていることがばかばかしくなった、など、自分の期待と違うイエス様を経験すると疑いは来ます。ヨハネでさえそうでした。自分の期待と違ったら疑います。

しかしどうでしょうか。私たちに神様を手なずけることはできるのでしょうか。私たちの思い通りにイエス様を飼いならすことができるのでしょうか。自分の勘違いを正すためにできることはただひとつです。自分の期待や考えに照らし合わせてイエス様を見るのではなく、先入観を捨てて自分の耳で聖書の言葉に聴くこと、自分の目でイエス様のご生涯を見ることです。偏見を疑い、正確に取材し、しっかり伝えることは尊いことです。あなたは神様がどれほどあなたのことを大切にしておられるか、お知りになることでしょう。イエス様はあなたに出会ってくださいます。

私たちは自分を守り自分の幸せを得るために神様を利用してきたのでしょうか。それなら私たち人間が自分の都合のためにつくった偶像ではありませんか。人は神を作り、逆にその神に縛られて生きています。それは神ならぬ偽りの神です。そうではありません。あなたをおつくりになられあなたをお支え下さる神様は、ご自身の大切な独り子のイエス様をあなたのためにお与えになるほど、あなたを大切にしておられます。あなたには今はすべてを理解できなくてもあなたにとって最善となるようにとすべてのことを相働かせてくださいます。イエス様はあなたのかわりにあなたの罪を負うために生まれてくださいました。十字架で尊い血を流し体を痛めつけられ、恥と呪いを受けてくださったほど、あなたを大切にしておられます。それは神様の前であなたの罪がすべて赦されて、あなたが神の子とされて、罪びとの友となり、共に幸せを作り出していくあたらしい生きがいに生きるためです。聖霊はあなたがこの聖書の約束を自分で見聞きすることを通して神様に心から信頼して、生涯神様と共に、信仰の豊かな実を結んで歩むことができるように責任をもって清め導いてくださいます。クリスマスを待ち望む今、自分の期待をイエス様に投影するのではなくて、聖書の語るイエス様のお約束に向き合いましょ。う。人の評価や不確かな感覚に頼って気持ちの浮き沈みによって信じた気持ちになったり疑ってしまったりする不安定な心から、正確に自ら神様のみ言葉を聞くように悔い改めましょ。う。確かな約束に信頼する信仰を神様が私たちの内におつくりくださいます。

さて、イエス様はバプテスマのヨハネを高く評価し尊重していました。神様が救い主の道備えのために遣わした偉大な預言者です。ヨハネの働きによって天国には多くの人が導かれていきます。預言者マラキが予告したように、最後の日の前に現れるエリヤのような存在です。命を犠牲にすることを覚悟して、王様にさえ義の道を説いた勇気ある改革者です。イエス様はヨハネのことを、およそ女から産まれた者のうちヨハネより偉大な人はいないとさえ言いました。そうです。ヨハネは神の民、イスラエルの救いを待ち望んでおり、イエス様こそその方だと人々に紹介しました。人としてできた最高のことをしました。

しかし、イエス様は確かに救い主としてきてくださったのですが、ヨハネの考えていたようなイスラエルの王びとだけの救い主ではありませんでした。ヨハネは救い主が来ることへのよい心構えを知らせましたが、まだどんな救い主が来られるかを知らなかったのです。イエス様はイスラエルの王として、民が一時的な政治的な覇権を握ることで全世界を支配する偉大な国に

するための、あの栄光のダビデ王の再来のような救い主として来られたのではありませんでした。それは神様がこの世での外面的な幸せをポンと与えてくださるような神様ではないということです。私たちが世にあって一時的にでもお金の心配も、健康の心配もなく、家族も友達も心許しあえる理想的な関係を持って、悩みも疑いも苦しみも不安もストレスもない幸せを自動的に与えてくださるお方ではありません。この点でヨハネは疑いましたね。イエス様は一部の人がこの世でしか通用しない何か特権的な豊かさを与えるために来られたというよりも、すべての人の罪を神様の御前で赦して、神さまの子どもとするために来てくださいました。

神様の子どもは世にあっては、自分の罪と、人びとの罪に悩みます。不安になります。疑うこともあります。人の前では威厳を保つひとりの人ですが、神様の御前では神様に大切にされている子どもとして素直で謙遜です。ですから決して人に自分に偉大さを自慢しません。どうしようもない自己中心でわがままな私の罪を、イエス様によって豊かに赦し続けて、神様の子どもとして導いてくださる神様に信頼して歩みます。いい人もたくさんいるのですが、しかしやはり私たちは罪深い人々の間で生きていると言わなければなりません。家庭でも、職場でも、社会でも、世界でも、人が生きているところにある不義と不正を私たちはぬぐうことはできません。人々は権利を主張します。自分を正当化します。人を傷つけます。そしておびえています。いつも自分の身と権利を守って歩むのはたいへんです。そんな中であって、イエス様は、天の国で最も小さなものでもバプテスマのヨハネよりも偉大である、と言われました。神様から産まれた者、イエス様を信じて洗礼を受けて、神様の前にすべての罪を赦されて神さまの子どもとされた者は、現実の罪深い世を愛しておられる神様が共にいてくださることを味わい、試みと苦しみの中であって人々を大切にして、何度倒れてもまた押しつぶされずに忍耐します。人の声に耳を傾け、自分に向けての人の罪を赦し、人が人として立っていくことができるように心を砕いて助けになります。神様がひとりも滅びないで永遠のいのちを得るようにと願っている世界だからです。弱々しく見えるかもしれません。自分が圧倒的な力を持つことができないかもしれません。ても、優しく、正しさ貫き、力をもったらそれを生かして、人びとと社会を立てあげていきます。これは神様の子どもに与えられる新しい生きがいです。天の国の最も小さい者として、神様に愛され、そして神様の愛をもって人と社会をつくりかえていく目と耳と足といのちを与えられて、小さな身の回りのことを大切にして歩んでまいりましょう。クリスマスを迎える今、あらためてイエス・キリストがあなたの救い主であることを感謝しましょう。自分で思い通りに操ることのできる神様ではありません。むしろ、イエス・キリストは罪びとを探して救うために来られました。自分で主体的にみ言葉を聞き、罪の赦しに預かりましょう。洗礼によってヨハネよりも偉大なものとされました。口先の信仰ではなく、あなたの家庭で、職場や近隣で、また教会で、行いと真実のこもった、悔い改めにふさわしい実を結んで人を生かし立てあげる一週間を歩みましょう。

イエスはお答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。」マタイによる福音書 11 章 4 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあつて守ってください。アーメン

讃美歌 268 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 まごころもて あおぎまつらん 世のため 呪いの木に つきたまいし 救いの主 わが主よ
- 2 **我が罪とが 汚れもみな 洗いて 今よりのち 君のものと なさせたまえ わが主よ**
- 3 いと豊けき 恵みをもて 冷えたる わが心に 清けき火を 燃やしたまえ わが主よ
- 4 **死のかわなみ 打ち寄すとも 安けく 御手によりて 天つ岸に 着かせたまえ わが主よ**
アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に としとに たえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏